

平成 22 年度松江高専年度計画の自己評価

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 (H21. 4～H26. 3) と本校の中期計画及び平成 22 年度年度計画
序文)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

- 1 教育に関する事項 ----- 2
 - (1) 入学者の確保
 - (2) 教育課程の編成等
 - (3) 優れた教員の確保
 - (4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム
 - (5) 学生支援・生活支援等
 - (6) 教育環境の整備・活用
- 2 研究に関する事項 ----- 12
- 3 社会との連携, 国際交流等に関する事項-- 12
- 4 管理運営に関する事項 ----- 13
- 5 その他

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

- III 予算 (人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画
- IV 短期借入金の限度額
- V 重要な財産を譲渡し, 又は担保に供する計画
- VI 剰余金の使途
- VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画

序文)
独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 30 条の規定により、独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）が中期目標を達成するための中期計画（以下「中期計画」という。）を次のとおり定める。

（基本方針）

国立高等専門学校は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出してきた。また、近年ではより高度な知識技術を修得するために 4 割を超える卒業生が進学している。

さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。このように国立高等専門学校にさまざまな役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めていかなければならない。また、産業構造の変化等を踏まえ、創造力に富み、人間性豊かな技術者の育成という視点に立って、国立高等専門学校における教育の内容も不断に見直す必要がある。こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とし、中期目標を達成するための中期計画を以下のとおりとする。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

機構の設置する各国立高等専門学校において、別表に掲げる学科を設け、所定の収容定員の学生を対象として、高等学校や大学の教育課程とは異なり中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行い、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせるため、以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。

機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>（1）入学者の確保</p> <p>① 中学校長や中学校 PTA などの全国的な組織との関係を緊密にするとともに、進学情報誌を始めマスコミを通じた積極的な広報を行う。</p> <p>② 中学生が国立高等専門学校の学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。</p> <p>③ 中学生やその保護者を対象とする各学校が共通的に活用できる広報資料を作成する。</p>	<p>（1）入学者の確保 〈本科〉</p> <p>①中学校との関係を緊密にするとともに、マスコミを通じた積極的な広報を行う。</p> <p>②中学生が松江高専の学習内容を体験できるような進路説明会、学校説明会、オープンキャンパス、入試問題説明会等を充実させ、敬遠されがちな女子学生の志願者に対しても十分な情報提供ができる取り組みを推進する。</p> <p>③中学生やその保護者を対象とする「高専 GUIDE」など広報資料を作成するとともに、PTA の学校訪問を可能な限り受け入れ保護者の理解を得る。</p>	<p>（1）入学者の確保 〈本科〉黒田先生</p> <p>①中高連絡会を実施し、中学校教員と高専教員の情報交換を行う(6月)。中学校の進路指導担当教員を対象に5地区で入試説明会を実施する(9月)。新聞・テレビ等を通じて松江高専の特色及び就職・進学状況を伝える。</p> <p>②オープンキャンパスの実施(8月)、中学校</p>	<p>〈本科〉</p> <p>① 6月24日に中高連絡会を実施し、33校の中学校教員が出席して高専教員および出身学生との情報交換を行った。また、7月9日に山陰中央新報・島根日日新聞にオープンキャンパスを中心とした本校の広告を掲載した。なお、9月14～17日に5地区で進路担当教諭を対象とした入試説明会を実施し、11月下旬から12月上旬に本校教員が島根県および広島県北部、鳥取県東部の中学校108校を訪問し、進路担当教諭と面談して進学説明を行うと同時に、本校在校生（該当中学出身者）および本校志願者の状況についての情報交換を行った。</p> <p>②6月中旬から7月中旬にかけて各中学校主催の進路説明会（72校）へ教員を</p>

<p>④ ものづくりに関心と適性を有する者など国立高等専門学校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。</p> <p>⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、中期目標の最終年度においても全体として18,500人以上の入学志願者を維持する。</p>	<p>④ものづくりに関心と適性を有する者など松江高専の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。</p> <p>⑤入学者の学力水準の維持に努める。 〈専攻科〉 専攻科の定員（20名）以上の入学者確保に努める。</p>	<p>主催の進路説明会への教員派遣（6～7月）、学校説明会（実習も含む）の実施（8地区、10月）、入試説明会の実施（11月）。中学校訪問の実施（11～12月）。</p> <p>③「高専 GUIDE」など広報資料を作成し配布する。中学校からの訪問を積極的に受け入れる。ホームページに新たに動画を載せ、中学生・保護者の理解を深める一助とする。</p> <p>④推薦入試における小論文課題の検討と作成を行う。学力入試における的確な人材選抜の方法を検討する。</p> <p>〈専攻科〉 福間先生 生産・建設システム工学専攻（定員：8名）、電子情報システム工学専攻（定員：12名）それぞれについて、定員以上の入学者を確保する。2専攻の定員確保のために、専攻科生の活躍（進路状況、工学研究成果、エン</p>	<p>派遣した。また、8月7日・8日に実施したオープンキャンパスには中学生・保護者あわせて約500名の参加者があり、本校の概要説明およびミニ授業への参加、各学科のフリー見学、寮の見学を行った。なお、10月には学校説明会を8地区で実施し、高専を志望する中学生および保護者に学生募集の詳細な説明を行うとともに、オープンキャンパスに参加できなかった中学生のためにキットを使った実習体験を行った。11月6日には本校で入試説明会を実施し、中学生および保護者232名が参加して入試の概要と入試問題についての説明を受けた。</p> <p>③「高専 GUIDE」など広報資料を作成し、進路説明会やオープンキャンパス等を通じて配布した。また、中学校（PTA、中学生、教員等）から松江高専への訪問が6月に1件、7月に1件、10月に2件あった。なお、松江高専のホームページ上に、学校行事や授業、実験実習、卒業研究などの様子をそれぞれ数分にまとめた動画を4月から順次アップし、中学生・保護者・教員等が松江高専の様子を具体的に知ることができるようにした。</p> <p>④ 推薦入試における小論文課題については、より良い問題を作るべく検討を行っている。また、学力入試における的確な人材選抜の方法を検討している。</p> <p>〈専攻科〉 来年度入学予定者は、生産・建設システム工学専攻、電子情報システム工学専攻それぞれについて、13と29名（合計42名）の入学者を確保した。専攻科学生募集のために、進路状況、工学研究、</p>
--	---	---	--

		<p>ジニアリングデザイン成果)を、学内外に示すことに努める。</p>	<p>エンジニアリングデザイン、JABEE等の実績紹介を含めた「専攻科学生募集案内(ちらし)」を作成し12月末に本科2から4年生の保護者全員に配布した。主に3年生を対象に行われるキャリア教育講演会(12月11日)においても専攻科への入学を呼び掛け、専攻科の案内を行った。</p>
--	--	-------------------------------------	---

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項・・・以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成22年度 松江高専年度計画	平成22年度の評価
<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、各高等専門学校がそれぞれの地域性や特色、立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、学科構成を見直し、地域の要請に即応した新分野の学科の設置や改組・再編・整備を適切に進めるとともに、地域や各高等専門学校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う。また、中央教育審議会答申の趣旨や入学志願者の動向、ニーズ等を踏まえ、高等専門学校の配置の在り方について地域の要望に即した見直しを行うものとし、宮城、富山、香川及び熊本の4地区にある高等専門学校の統合を着実に進める。さらに、必要な外部有識者や各学校の参画を得た調査研究を行い、その成果を活用する。</p>	<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、松江高専の地域性や特色、立地条件等を考慮し、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、地域の実情や要請を常に調査し、必要性が生じた場合は新学科の設置や改組・再編・整備を適切に進める。また、島根県の技術者不足を補うために専攻科の整備・充実を行う。</p> <p><機械工学科></p>	<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p><本科></p> <p>① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、松江高専の地域性や特色、立地条件等を考慮し、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、地域の実情や要請を常に調査し、必要性が生じた場合は新学科の設置や改組・再編・整備を適切に進める。</p> <p><専攻科> 福間先生</p> <p>生産・建設システム工学専攻、電子情報システム工学専攻の各専攻では、それぞれの分野におけるエンジニアとしての基礎を身につけ、さらに専門分野や分野を融合した境界領域の専門科目、研究、実験を通じて問題発見・解決能力、創造性を養成する。座学授業以外では、エンジニアリングデザイン教育(専攻科1年、4単位)、専攻科工学研究(専攻科1,2年16単位)において指導体制を充実し、教育の質的向上を目指す。</p>	<p><本科></p> <p>① 中長期的な視点による学科の改組・再編・整備については、松江高専の所在地である島根県および松江市を中心とする地域の実情や行政から高専に対する要請、および県下の高校の再編成基本計画などの教育行政を勘案しながら、常に検討している。平成22年度中は学科の改組・再編についての計画はなく、入学してきた学生に対する教育に全力を注いだ。</p> <p><専攻科></p> <p>今年度も学位授与機構での学位試験を受けた学生全員(35名)が合格することができた。専攻科1年では、エンジニアリングデザインとして、システム技術実験1,2を実施した。単に知識の習得だけでなく、「考える力」、「コミュニケーション」、「課題解決力」の向上に有効であった。</p> <p><機械工学科></p> <p>人間性豊かで、機械を設計製作できる能力を養うため創造演習などの科</p>

機械工学技術者としての基礎知識を修得し、「創造的な技術・製品開発」の将来を担う人間性豊かで、機械を設計製作できる能力、機械の設計製作及び研究などにコンピュータ技術を応用できる能力を持つ人材の養成を目指す。在学中に機械設計技術者3級の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。

<電気工学科>

電気・電子・情報通信工学の基礎知識と技術を習得し、関連分野の工学問題を解決できる素養をもった技術者の養成を目指す。

在学中に第3種電気主任技術者、あるいは電気通信主任技術者の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。

<電子制御工学科>

電気・電子、機械、情報・制御などの知識を幅広く吸収する意欲を養成する。得られた知識を統合し、メカトロニクス分野などへ応用できる能力、及び、データを解析し、自らの言葉として発表できる能力を養成する。さらに、ものづくりの体験を通して、主体的、積極的に行動できる創造性豊かな人間の養成を目指す。

在学中に基本情報技術者、初級システムアドミニストレータの資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。

<情報工学科>

コンピュータおよびネットワークを中心とした情報工学の基礎知識と技術を習得し、変化の激しいこの分野に柔軟に対応できる素養をもった技術者の育

<機械工学科>

創造演習などの科目を取り入れ、人間性豊かで、機械を設計製作できる能力を養うことに努める。また、機械の設計製作及び研究などにCAD等パソコンをできるだけ利用し、コンピュータ技術を応用できる能力を持つ人材の養成を目指す。機械設計技術者3級の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。

<電気工学科>飯塚先生

電気・電子・情報通信工学の基礎知識と技術を習得し、関連分野の工学問題を解決できる素養をもった技術者の養成を目指す。

在学中に第3種電気主任技術者、あるいは電気通信主任技術者の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。

<電子制御工学科>藤原先生

電気・電子、機械、情報・制御などの知識を幅広く吸収する意欲を養成する。得られた知識を統合し、メカトロニクス分野などへ応用できる能力、及び、データを解析し、自らの言葉として発表できる能力を養成する。さらに、ものづくりの体験を通して、主体的、積極的に行動できる創造性豊かな人間の養成を目指す。

在学中に基本情報技術者、初級システムアドミニストレータの資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。

<情報工学科>福岡先生

情報工学の基礎知識・技術の習得に関しては、内容的に大きく変化するものではないことから、現行カリキュラムで対

目を積極的に行った。また、各教科及び卒業研究などにパソコンをできるだけ利用し、コンピュータ技術を応用できる能力を身に付けるようにした。

結果としてかなり成果があったように思う。

<電気工学科>

電気工学に関する基礎学力の充実を目指すし、1年生に対する数学補習と2年生と3年生に対して電気回路と電気磁気学の補習を行い、成績不振者の低減が図れた。問題解決能力養う科目「電気デザイン」の後期分の履修者が少なく合格率も25%と低かった。

電検3種の科目合格者は3名と少なかった。一方、工事担任者の資格を1名が初めて取得した

<電子制御工学科>

3年次、4年次に実行している創造設計製作の内容を充実し、ものづくりの体験を通して、主体的、積極的に行動できる創造性豊かな人間の養成の強化ができた。

ITパスポートの合格者は2名で、情報関連の資格試験の合格者は減少した。しかし、ニュージーランドに語学研修には3名が参加し、英語力の強化と世界的視野を持った技術者としての素養の強化になった。

<情報工学科>

近い将来を見据えたカリキュラム改訂案については22年度中に結論を得ず、検討を継続することとした。

現場の技術者を招いた学生向け講習会を2回実施することができた。

基本情報技術者試験に限らず、IPA

<p>② 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化やコース制の導入などについて検討を行う。</p> <p>③ 各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験を実施し、試験結果の分析を行うとともに公表する。また、英語については、TOEICなどを積極的に活用し、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。</p>	<p>成を目指す。 在学中に基本情報技術者の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。</p> <p><環境・建設工学科> 将来、地方において、人・物・情報が効率的に通い合い、安心して暮らすことができる地域環境の整備や維持管理を適切に行える建設技術者の育成を目指す。 教育課程として、建設関連資格制度に適合したカリキュラムを整備・維持し、在学中に各種建設関連資格に相当する能力を有する人材の育成を目指す。</p> <p>②産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化やコース制の導入などについて検討を行う。</p> <p>③各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験に参加し、試験結果の分析を行う。また、英語については、TOEICなどを積極的に活用し、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。</p> <p><人文科学科> 国際化に対応できる有意な人材を育成することを目標として、バランスのとれた総合的な教養を身につけさせる。</p>	<p>応する。並行して、近い将来を見据えたカリキュラム改訂案を 22 年度中に検討する。 情報工学分野の実情を実感させるために、現場の技術者を招いた学生向け講習会を複数回開催する。 4 年次終了時までに、全学生が基本情報技術者試験を少なくとも 1 回は受験するよう指導を強化する。</p> <p><環境・建設工学科>高田先生 将来、地方において、人・物・情報が効率的に通い合い、安心して暮らすことができる地域環境の整備や維持管理を適切に行える建設技術者の育成を目指す。 教育課程として、建設関連資格制度に適合したカリキュラムを整備・維持し、在学中に各種建設関連資格に相当する能力を有する人材の育成を目指す。</p> <p>②中・長期的な視点による学科のあり方については、松江高専の所在地である島根県や松江市を巡る社会状況や地方自治体の教育行政も常に監視しながら、検討する。(教務)</p> <p>③平成 22 年度においても、下級生においては基幹的な科目である「国語」「数学」「英語」の学力を業者テストを利用して把握する。また、学習到達度試験に参加し、試験結果の分析を行う。上級生に対しては、TOEIC-IP 試験を実施し、技術者として必要とされる英語力を伸</p>	<p>が定める情報処理技術者試験については、H23 年度 5 年生は全員が受験していることを確認した（合格率は 54%）。</p> <p><環境・建設工学科> 教育面での成果として、重点を置いている資格の獲得について、現役学生から 3 名の技術士補、15 名の 2 級施工管理技師、7 名の CAD 利用技術者補の資格取得者を輩出することができた。 資格取得者の増加は一定の成果として捉えている。</p> <p>②平成 22 年度中は学科の改組・再編についての計画はなく、入学してきた学生に対する教育に全力を注いだ。</p> <p>③今年度も 1～3 年生に対して英・数・国の 3 教科について 5 月 13 日と 1 月 13 日の 2 回の学習到達度試験を計画し、2 回とも予定通り実施した。採用している業者テストはベネッセ「スタディーサポートα」で、試験結果は個人に知らせる以外に、教員に対しても全体的な分析を業者から聞く機会を設けた。また、同日に 4 年生以上に対しては TOEIC-IP 試験を実施し、成績が高得点の場合には、特別</p>
--	--	--	---

英語においては1～3年生に対して習熟度別クラス編成を行い、能力・希望に即した授業展開を行う。この他、月例の小テスト、長期休業後の課題テストなどを課し、学習への取り組みを後押しする。

国語においては、古文、現代文の読解をはじめ、漢字や論述の能力向上を積極的に進める。

社会においては、多種多様な分野について学習することによって、高専卒業生の不足が指摘される広い視野の獲得を目指す。

保健体育においては、自らの心と身体を見つめる必要性を説きながら、身体の鍛錬に取り組むと共に、級友との関わりをとおして社会性を育てる。

<数理科学科>

数学・理科は工学の基礎であるので、低学年において基礎的事項を全員に習得させる必要がある。

数学では1～3年生に対し定期試験以外に年4回中中間試験を実施し、学生のやる気を引き出すと共に習熟度別クラス編成の編成替えを行い、能力に合った授業を展開する。

長期休業期間（夏休み、春休み）前に1～3年生に対し数学と物理の課題を与え、休業期間終了後に課題テストを実施することにより、長期休業期間中の学習の動機付けと復習を行わせる。

化学では1, 2年生に対し、年20回の計算・単位換算・基礎的知識ドリルを行い、基礎計算能力と基礎的事項の定着を図る。

新入生に対して入学前に数学、理科の

長させる。(教務)

<人文科学科> 森山先生

国際化に対応できる有意な人材を育成することを目標として、バランスのとれた総合的な教養を身につけさせる。

英語においては1～3年生に対して習熟度別クラス編成を行い、能力・希望に即した授業展開を行う。この他、月例の小テスト、長期休業後の課題テストなどを課し、学習への取り組みを後押しする。

国語においては、古文、現代文の読解をはじめ、漢字や論述の能力向上を積極的に進める。

社会においては、多種多様な分野について学習することによって、高専卒業生の不足が指摘される広い視野の獲得を目指す。

保健体育においては、自らの心と身体を見つめる必要性を説きながら、身体の鍛錬に取り組むと共に、級友との関わりをとおして社会性を育てる。

<数理科学科> 勝部先生

数学・理科は工学の基礎であるので、低学年において基礎的事項を全員に習得させる必要がある。

数学では1～3年生に対し定期試験以外に年4回中中間試験を実施し、学生のやる気を引き出すと共に習熟度別クラス編成の編成替えを行い、能力に合った授業を展開する。

このところ成績の分極化がみられ、数学と物理において、今年度から各学期末の9月と3月にその学期成績が不合格の学生に対して集中授業(D科目)を開講

学修の単位として認めた。

<人文科学科>

英語は習熟度編成クラスの実施により、指導方法の工夫などを通して、試験結果を分析すると、特に英語を苦手とする層の学生の底上げをはかることができた。また、小テストや月例テストなどを通して、自習時間をきちんと確保することができた。

国語は平成22年度、第1学年において授業内容を変え、一年を通して現代文と古典(古文・漢文)を扱うこととした。第1学年・第2学年で半期ずつ作文の授業を行ってきたが、作文力の定着がはかばかしくないことと、古典の知識、語彙の定着が難しくなることからである。実力テストの結果などから、古典に関する知識は向上している。

社会は低学年では地理・世界史・日本史・現代社会、高学年では法学・経済学・哲学・倫理学を開講し、講義のほか課題・レポート等を課して幅広く学習できるよう務めた。

保健体育は、年々運動技能が低下する学生の実態に合わせた運動課題提供を工夫しながら、大きな怪我などの発生もなく当初の目標を達することができた。

<数理科学科>

・計画通り試験を実施し、能力に合った授業展開を行った。

④ 卒業生を含めた学生による適切な授

<p>業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。</p> <p>⑤ 公私立高等専門学校と協力して、スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストを実施する。</p> <p>⑥ ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の実績を踏まえ、その実施を推進する。</p>	<p>課題を与え、入学直後に試験を行いその結果を入学後の指導に生かす。</p> <p>④ 卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。</p> <p>⑤ スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストに積極的に取り組む。</p>	<p>し、基礎的事項の習得と単位の修得をさせ、次期学期へのスムーズな導入を図る。さらに、数学においては、前学期に成績が不合格の学生を中心に授業（C科目）を開講し、復習、演習等を通して、数学の授業の理解度を深める。物理においては、1年の後期及び2年前・後期に特別演習を実施し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>長期休業期間（夏休み、春休み）前に1～3年生に対し数学と物理の課題を与え、休業期間終了後に課題テストを実施することにより、長期休業期間中の学習の動機付けと復習を行わせる。</p> <p>化学では1, 2年生に対し、年20回の計算・単位換算・基礎的知識ドリルを行い、基礎計算能力と基礎的事項の定着を図る。</p> <p>新入生に対して入学前に数学、理科の課題を与え、入学直後に試験を行いその結果を入学後の指導に生かす。</p> <p>④ すべての科目のシラバスに授業点検教員を明記し、前期、後期終了時に学生による授業評価を実施する。その結果を点検教員が点検し、科目担当教員に授業改善に向けたコメントをする。</p> <p>(FD/SD 委員会)</p> <p>卒業時及び専攻科修了時に5年間あるいは2年間の学校生活全般にわたる「卒業生・修了生教育改善アンケート」、「満足度アンケート」、「成績評価に関するアンケート」を実施・分析し、平成23年度の教育改善につなげる。(自己点検・評価委員会)</p>	<p>・D科目は新1年生のカリキュラムに反映した。また、2年・3年についても今年度からカリキュラムに追加して実施した。</p> <p>・C科目の授業時間割は放課後に割り当て、LT演習の受講生である上級生が1:2でサポートする体制で4月から実施した。</p> <p>・D科目の実施は、1年生は数学と物理、2年生は数学と物理または専門科目、3年生は数学と専門科目を設け、夏休みと春休みに計画どおり実施した。</p> <p>・長期休業期間中の課題及び課題テストについて計画通り実施した。</p> <p>・化学のドリルを計画通り実施した。</p> <p>・新入生に対する課題と入学直後の試験について計画通り実施し、その結果を学級担任が入学後の指導に生かした。</p> <p>④シラバス、学生による授業評価について、計画どおりに実施することができた。</p> <p>・本科については1月に、専攻科については2月にアンケートを実施し、アンケート結果を分析すると共に学内ホームページで全教職員に公表した。加えて専攻科については前期終了時</p>
---	--	--	---

	<p>⑥ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの活動を推進する。</p>	<p>平成 21 年度に専攻科修了生を対象に「JABEE 教育目標」に関するアンケートを行い、一部改訂を行った。本年度はそれらの改訂された目標に似合う教育を実施することに積極的に取り組む。 (教務委員会)</p> <p>⑤ スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストに一人でも多くの学生が挑戦するよう、学生会を中心にして呼びかけさせる。(学生委員会)</p> <p>⑥学生会を中心に、松江市の公民館行事への参加を計画。ペットボトルロケット作成、おもちゃの病院、竹いかだ作りの補助、公民館の祭の援助等を予定。また、地域の清掃活動にも参加する予定。具体的には、毎週の地域ゴミ拾い、年 2 回の松江市全体のクリーンマツエに松江高専として参加する予定。本校の隣にある生馬小学校グラウンドの除草作業と整備も計画。</p>	<p>に 1、2 年生全員に対して「前期専攻科教育改善アンケート」を実施した。</p> <p>改訂された教育目標は、エンジニアリングデザイン教育と関連が多いが、専攻科での教育で積極的に取り組みはできた。</p> <p>⑤平成 22 年度中国高専体育大会に多くの学生が出場し、8 月の全国大会に 7 種目が進出し、団体 2 種目、個人 1 種目が優勝、個人 2 種目が 2 位、2 種目が 3 位となった。全国高専弓道選抜大会で男子団体 3 位となった。コンテストでは、多くのチームが参加した校内予選と予選審査を通過したチームが全国大会に参加し、ロボコンでは激走賞、プロコンでは、3 部門全て 2 位以内(課題部門は優勝)、英語プレコンでは準優勝となった。</p> <p>⑥学生会とロボット研究部、理科部が協力して、公民館行事のペットボトルロケット作成講習会と飛行大会の実施(法吉公民館、古江公民館)、おもちゃの病院での制作補助、竹いかだ作りの補助、公民館の祭での準備・片付け、模擬店の運営、を行った。</p>
--	---	--	--

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項・・・以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価

<p>(3) 優れた教員の確保</p> <p>① 多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。</p> <p>② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることでできる人事制度を活用するほか、高等学校、大学、企業などの任期を付した人事交流を図る。</p> <p>③ 専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。 この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。</p> <p>④ 女性教員の比率向上を図るため、必要な制度や支援策について検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。</p> <p>⑤ 中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベ</p>	<p>(3) 優れた教員の確保</p> <p>① 多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないように努める。</p> <p>② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることでできる人事制度を活用する。</p> <p>③ 専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。</p> <p>④ 女性教員の比率向上を図るための制度を定め、働きやすい職場環境の整備に努める。</p> <p>⑤ 中期目標の期間中に、FD/SD 委員会</p>	<p>(3) 優れた教員の確保 管理運営担当</p> <p>① 完全公募制とし、公募情報を本校のHP、研究者人材データベースなどで広く公表し、様々な経歴を持った方の採用に努める。</p> <p>② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることでできる人事制度を活用する。</p> <p>③ 専門科目及び理系の一般科目については95%、理系以外の一般科目については86%の教員が高度の資格を持っており、中期目標を達成している。今後もこの状態を維持できるように努める。</p> <p>④ 現在6名(8%)の女性教員が在籍しているが、さらに割合を高くするために、松江高専における教員選考評価基準で女性を優遇する項目を作成する。</p> <p>⑤ 平成22年度はFD/SD委員会と人権委員会合同主催で「学校における人権問題」について教職員研修を9月29日に開催計画をしている。(FD/SD委員会・人権委員会)</p>	<p>①本年度3件の教員公募を行った。なお、公募情報は本校のHP、研究者人材データベースなどで広く公表した。その結果、企業在籍者、中学校教員、高校・大学の非常勤講師という様々な経歴の方から応募があった中で採用を内定した。</p> <p>②平成24年度に電子制御工学科が高専間・高専技科大間人事交流制度等を利用して教員を派遣する計画である。</p> <p>③本年度、計画通り維持することができた。</p> <p>④教員選考基準に女性を優遇する項目を作成した。</p> <p>⑤9月28日(火)に全教職員対象の人権委員会とコンプライアンス委員会共催の「パワハラとアカハラ」に関する講演会を行った。</p> <p>⑥平成23年度機構在外研究員に数理</p>
--	---	--	---

<p>ロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。</p> <p>⑥ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。</p> <p>⑦ 文部科学省の制度や外部資金を活用して、中期目標の期間中に、300名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。</p>	<p>を中心にして教職員の能力向上を目的とした研修を実施する。</p> <p>⑥ 文部科学省の制度や外部資金を活用して、長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会に職員を積極的に参加させるとともに、教員の国際学会への参加も促進する。</p>	<p>⑥ 在外研究員や内地留学制度を積極的に利用するため、各学科に年度計画を立てるように依頼する。また、教員に各種制度を積極的に説明する。</p>	<p>科学科が派遣申請し、認められ派遣が決定した。また、平成24年度は電子制御工学科が高専間・高専技科大間人事交流制度等を利用して教員を派遣する計画である。なお、教員会議で、高専間・高専技科大間人事交流制の説明を行った。</p>
--	--	---	--

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項・・・以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成22年度 松江高専年度計画	平成22年度の評価
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>① 中期目標の期間中に、各学校の枠を越え、校長や教員の教育研究の経験や能力を活用した研究会や委員会などの組織において決定した5つ以上の分野について、国立高等専門学校の特性を踏まえた教材や教育方法の開発を推進する。</p> <p>② 実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定を通じて教育の質の向上を図る。</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>① 教員の教育力向上およびカウンセリング能力向上のための研修を実施する。</p> <p>技術職員の能力向上のために、技術職員を企業に派遣する。また、各種講習会に参加させる。</p> <p>② 実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定を通じて教育の質の向上を図る。</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム (本科)</p> <p>① 教員の教育力向上を目指して、授業改善合同WGによる活動(公開授業、保護者参観授業)やFD/SD委員会主催の講演会などを計画する。(教務)</p> <p>平成22年度に中国地区高専技術職員研修会を松江で開催する。(実践教育支援センター)</p> <p>② 在学中の資格取得は「資格取得に伴う特別学修」として学生に提示しているが、今年度も取得を積極的に勧める。また、来年度のJABEE継続審査を目指し</p>	<p>① 7月29日(木)に、FD/SD研修として全教職員対象の「佐世保高専における特別支援の取り組み」と題した講演会を開催した。聴講した約70名の教職員は、改めて発達障害のある学生への特別支援を学ぶことにより松江高専での今後の教育活動の参考となり、有意義な講演会であった。</p> <p>成22年度に中国地区高専技術職員研修会を計画通り松江で開催した。</p> <p>② 本年度も多くの学生が「資格取得に伴う特別学修」の単位認定を受けた。下級生では漢字能力検定や実用英語技能検定がほとんどであるが、上級生</p>

<p>③ 毎年度サマースクールや国内留学などの多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。</p> <p>④ 各学校における特色ある教育方法の取り組みを促進するため、優れた教育実践例をとりまとめ、総合データベースで共有するとともに、毎年度まとめて公表する。</p> <p>⑤ 学校教育法第 123 条において準用する第 109 条第 1 項に規定する教育研究の状況についての自己点検・評価、及び同条第 2 項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組例について総合データベースで共有する。</p> <p>⑥ 乗船実習が義務付けられている商船学科の学生を除き、中期目標の期間中に、過半数の学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進に向けた実施体制の整備を図る。</p> <p>⑦ 企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材を活用した教育体制の構築を図る。</p> <p>⑧ 技術科学大学を始めとする理工系大学との間で定期的な協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などの分野で、有機的な連携を推進する。</p>	<p>③ 毎年度海外語学研修や国内留学などの多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。</p> <p>④ 特色ある教育方法の取り組みを促進するため、優れた教育実践例（FD活動など）をとりまとめ、ホームページに掲載する。</p> <p>⑤ 学校教育法第 123 条において準用する第 109 条第 1 項に規定する教育研究の状況についての自己点検・評価、及び同条第 2 項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果の検討や改善に取り組む。（自己点検・評価委員会）</p> <p>⑥ 7 割以上の学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進に向けた実施体制の整備を図る</p> <p>⑦ 企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材を活用した教育体制の構築を図る。</p> <p>⑧ 県内の大学と教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などの分野で、有機的な連携を推進する。</p>	<p>て、教育の質向上に、「授業改善合同WG」を中心に取り組む。（教務）</p> <p>③ 昨年は新型インフルエンザ流行の恐れから中止をした海外での語学研修（ニュージーランド）を再開する予定であり、参加学生を積極的に募る。 また、九州地区高専がシンガポールのポリテクと進めている交流事業に本校から参加できるようになったので、これも学生へ積極的に勧める。（教務）</p> <p>⑤ 松江高専で受けた教育に対する学生自身による評価を今年度も 5 年生の終わりに実施し、結果を自己点検・評価委員会や学校協議会で検討することで、教育の質の保証の為に PDCA を回していく。（教務）</p> <p>⑥ インターンシップの受け入れ先を増やす方策の一つとして、松江高専との連携組織である「松江テクノフォーラム」の事務局を通じて、全会員企業へ依頼書を送付するなど、組織的な推進を図る。（教務）</p> <p>⑧ 教員の研修については、機構本部による研修会以外に、どのような方法が可能か検討する。教育課程の改善については、平成 21 年度カリキュラム WG で検討され、教務委員会、学校協議会で承認された新カリキュラムを有効に実施する。（教務）</p>	<p>になるに従い、専門的な資格試験や TOEIC 高得点に伴う単位申請が多い。</p> <p>③ 本年度は 20 名の学生と 2 名の教員が Wintec 研修に参加した。そのプログラム内容についても熟慮されたもので、高い効果が得られた。 シンガポールのポリテクニク関連のプログラムについても学生への周知徹底を図り、昨年度に続いて興味関心を持って参加してくれる学生の増加に努めた。</p> <p>⑤ 本科については 1 月に、専攻科については 2 月にアンケートを実施し、アンケート結果を分析すると共に学内ホームページで全教職員に公表した。加えて専攻科については前期終了時に 1、2 年生全員に対して「前期専攻科教育改善アンケート」を実施した。</p> <p>⑥ 平成 22 年度は、本科と専攻科を合わせて延べ 190 名の学生がインターンシップや校外実習を行った。このうち 34 名の学生が「松江テクノフォーラム」会員企業でインターンシップを行った。</p> <p>⑧ 機構本部主催の研修会以外の研修方法については具体的な計画の立案にまでは至らなかった。 昨年度のカリキュラム WG で検討された C 科目および D 科目をカリキュラムに反映し、今年度より実施した。数学の補習的性格を持つ C 科目については、担当教員から学習の定着化に非常に有効で、成果も現れたとの報告を受けている。また、D 科目は夏休みと</p>
--	---	--	--

<p>⑨ インターネットなどを活用したeラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>⑨ インターネットなどを活用したeラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>⑨ eラーニングについては学術情報委員会の中のeラーニングWGを中心に積極的に取り組む。</p> <p>〈専攻科〉 専攻科</p> <p>松江高専の専攻科1年時のシステム技術実験Ⅰ、Ⅱ(前後期・4単位)では、エンジニアとして必要となる問題発見・解決提案の能力とエンジニアリングデザインの能力を身につけることを目標として、適切なテーマを学生に与え、技術的指導とアドバイスを行う。エンジニアリングデザインは、本校のJABEEプログラムの特徴的教育である。(専攻科)</p> <p>専攻科工学研究(専攻科1,2年16単位)では、研究の質的向上と学生のコミュニケーション、プレゼンテーション能力向上のために、学内だけでなく外部発表も年1回程度を目安として実施する。また、外国人教員による英語プレゼンテーション(1年2単位)、総合英語コミュニケーション(2年,2単位,必修)では、学生自らが体験したエンジニアリングデザイン、工学研究の成果を英語により発表することで基礎的英語対話能力を高める。(専攻科)</p>	<p>春休みに実施したが、4～5日間の集中授業のため受講生も教える側も大変ではあったが、アンケートから学生にとって評価が高く、有意義な授業であったことが分かった。</p> <p>⑨マルチメディアなどICTを活用した教育では、eラーニングを推進しており、英語・数学・物理などのeラーニング教材に加えて、本年度は情報系科目で対応を増やしている。</p> <p>専攻科</p> <p>システム工学実験1,2では、履修者が学生は非常に熱心に取り組んだ。「今まであまり経験したことがなかったので、とてもためになった。」「このような機会を増やしてほしい。」など、授業アンケート評価は、おおむね評価が高かった。エンジニアリングデザインに関する成果の外部発表として中国ベンチャービジネスグランプリに15件参加し、内1件が入賞した。専攻科学生の学外発表件数は、今年度は100件を超えており、専攻科1,2年の学生数上回る発表件数となっており、平均で学外発表は年間1回以上を達成した。専攻科2年生は、2月5日に一日掛けて、総合英語コミュニケーションの発表会を実施した。外国語科マロー教授を中心に、英語科教員による個別指導を受けて、履修者全員が発表と質疑応答を行った。</p>
---	---	--	--

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項・・・以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。

機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>① 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。</p> <p>② 図書館の充実や寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。</p> <p>③ 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各学校における各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させるとともに、産業界等の支援による奨学金制度創設に向けた検討を行う。</p> <p>④ 学生の適性或希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>① 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。(学生委員会・学生相談室)</p> <p>② 施設整備委員会と協力して図書館の充実や寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。</p> <p>③ 各種奨学金制度、授業料減免など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。</p> <p>④ 学生の適性或希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を充実させる。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等 学生委員会</p> <p>① 学生支援に関する教員対象の研修会を実施するとともに、中等教育後半に属する学生の在籍も考慮し、保護者への学生支援のあり方等に関する啓蒙活動を講演会開催などを通して行う。 学生相談室は、学校全体で対応する必要があるような複雑な問題を抱える学生がクラスに在籍する場合、担任業務のサポートを行う。</p> <p>② 施設整備委員会と協力して図書館の充実や寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。</p> <p>③ 奨学金、授業料免除の情報を、保護者宛に郵送、学生には、校内電光掲示板と学科掲示板、クラス掲示板、担任からの連絡によって提供する。また、学生用に説明会を実施する予定。 〈本科〉</p> <p>④ 校内 HP による求人情報の提供。求人情報、就職・進学情報が閲覧できる所を校内 2 箇所に設置し、求人情報、企業情報のパンフレットを提供、求人についてパソコンで検索できるようにする。企業の関係者、卒業生を招いて就職説明会を実施する予定。進学の説明会も実施予定。就職、進学の相談や対策指導は、各学科だけでなく一般科目も実施する予定。</p>	<p>① 後期に外部講師による発達障害の研修会を、3月に本校精神科医によるメンタルヘルス研修会を実施した。</p> <p>② 施設設備委員会として図書館電気室機器のPCB含有について検査を実施した。寄宿舎受電設備改修工事を実施して受電容量を強化した。寄宿舎1号館から6号館の全居室にエアコンを設置し、冷暖房が使用できるように整備した。寄宿舎5号館1階の留学生の居室を個室に改修し、1階から3階までトイレ等の水回りを整備した。寄宿舎1号館は昭和39年度に建設されたため、老朽化及び天井が低いため改築工事を要求できるように計画した。全館にエアコンを設置し、11月から使用できるようにした。</p> <p>③ 授業料免除の情報は、校内電子掲示板及び校内掲示板により情報提供を行った(4年生以上)。本科2・3年生に対する授業料免除(経過措置)については、該当する学生に直接情報提供を行った。平成23年度前期授業料免除の情報については、後期成績に同封して保護者に郵送した。 奨学金の情報は、校内電子掲示板、校内掲示板、クラス掲示板及び担任等から学生に周知することにより情報提供を行った。</p> <p>④ 校内HPによる求人情報を常時提供している。求人情報、企業情報のパンフレットの提供や求人情報を検索</p>

<専攻科> **専攻科**

④専攻科生の出身学科の専攻科委員(各学科教員)と本科各学科の協力体制を構築し、各出身学科の学生に適切な進路選択のアドバイスを行う。進学については、大学から講師を招き大学院進路説明会を実施する。大学院見学会を1回以上実施する。

できるパソコンを置いたブースを校内に設置しているが、11月よりもう一部屋設置した。企業関係者、大学関係者による就職・進学講演会、卒業生による講演会・質問会を各学科で実施した。また、1月20日に、3年生を対象にしたジョブカフェによる就職セミナーを実施した。工場見学旅行は、3年と4年で実施し、島根県ふるさと定住財団の協力で、年数回、島根県内の企業を日帰り見学した。後期より、外部講師を招き、「コミュニケーションスキルセミナー」を開催して就職活動を支援した。後期、ハローワークからジョブサポーターによる就職出張相談を常時開催するため、就職支援ブースを校内に11月に設置した。校内に常設の進路学習相談室では、本校学習相談員教員と本校専攻科学生が毎日1名ずつ、進路相談や学習相談を実施した。

④専攻科2年生の修了予定者の進路については、各学科の専攻科委員に対応していただき、生産・建設システム工学の学生1名が研究生として残り、就職に臨む以外は、全員の進路が決定した。大学院見学を3月10-11日に実施し、京都大学、奈良先端大学の見学を行った。大学院の説明会は、奈良先端大学、九州大学、名古屋大学など6回を実施することができた。

⑤ 毎週行われる学年会に相談員も出席し、そこで担任教員より話題にあがる学生については担任教員と相談しながら相談室としても対応にあたった。また、逆に相談室で把握できているケースはその内容に応じて担

			任・アドバイザー教員への情報提供を行い連携がとれるように努力した。
--	--	--	-----------------------------------

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項・・・以下の観点に基づき各学校の教育実施体制を整備する。			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>① 施設マネジメントの充実を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを実施する。</p> <p>② 産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修をはじめ、耐震性の確保、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、寄宿舎の整備、環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進することとし、特に、施設の耐震化率の向上に積極的に取り組む。</p> <p>③ 中期目標の期間中に専門科目の指導</p>	<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>①施設マネジメントを継続して実施し、施設利用率の向上を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンス実施に向けての予算獲得に努力する。</p> <p>②実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修のための予算獲得に積極的に取り組む。 学生寮（特に1号館）の改修あるいは建て替えのための予算獲得に積極的に取り組む。</p> <p>③専門実習科目の指導に当たる全ての教員・技術職員が、安全管理のための講</p>	<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>①施設マネジメントを継続して実施し、施設利用率の向上を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンス実施に向けての予算獲得に努力する。</p> <p>②実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修のための予算獲得に積極的に取り組む。 耐震強度の低い学生寮1号館の建て替えのための予算獲得に積極的に取り組む。</p>	<p>①寄宿舎の居住環境整備のため、平成22年度営繕事業として全居室のエアコン設置を実施した。</p> <p>②高専機構本部に提出した中期目標期間（H22-H25）の年次設備整備マスタープランのうち、平成22年度は下記の4件が採択された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホブ盤 ・シャーリングマシン ・電子計測機器実験装置 ・ガスクロマトグラフィーガス分析システム <p>安全・安心な教育環境の確保のため及び寄宿舎1号館の耐震改修事業進展のために構造体の追加調査を実施し</p>

<p>に当たる全ての教員・技術職員が受講できるように、安全管理のための講習会を実施する。</p>	<p>習をする。</p>	<p>③専門実習科目の指導に当たる全ての教員・技術職員が、安全管理のための講習をする。</p>	<p>た。 ③6月28日に次の事項について講習会を実施した。 ・水封式安全器の水量チェックとガス漏れチェックの手順 ・重油タンク漏洩対応手順書に基づく漏洩対策方法の確認 ・化学薬品・危険物・特殊ガスの異常時の対応手順 ・産業廃棄物の分類処理方法</p>
--	--------------	---	--

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

2 研究に関する事項			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>① 学校間の共同研究を企画するとともに、研究成果等についての情報交換会を開催する。また、科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催する。</p> <p>② 国立高等専門学校を持つ知的資源を活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取り組みを促進するとともに、これらの成果を公表する。</p> <p>③ 技術科学大学と連携し、国立高等専門学校の研究成果を知的資産化するための体制を整備し、全国的に展開する。</p>	<p>①専攻科指導教員資格を維持するため、専門科目教員全員が中期計画期間内に1編以上の査読付き論文または書籍を執筆する。</p> <p>②外部研究費獲得のため科研費に専門科目教員全員が毎年申請する。</p> <p>③科研費以外の外部資金獲得のために、特別事業推進委員会（委員長：学校長）を立ち上げ、どの事業に応募するかを決定する。応募する事業については特別事業推進室を設置し、チームで資金獲得を目指す。</p>	<p>①専門科目教員（教授・准教授）で、専攻科研究指導担当は平成 22, 23 年度に1編以上の査読付き論文または書籍を執筆することを計画し、研究または執筆を開始する。（専攻科長）</p> <p>②教員研究費は職階に関わらず一律として、科学研究費応募と同等の書類形式の学内研究費申請を行い、研究費配分をする。これによって、外部研究費申請のための準備として、申請を奨励する。</p> <p>③平成 22 年度現在 12 の推進室を設置しているが、さらに 13 番目の推進室を設置する計画をしている。 管理運営</p>	<p>①平成 22 年度に本校教員が執筆した査読付き論文が 27 編、著書が 12 冊であり、平成 22・23 年度の年度計画を達成できる見込みである。</p> <p>②今年度、科学研究費を中心とした外部研究資金費獲得準備となる学内シーズ発掘型研究（応募締切 8 月 31 日）の応募は 47 件あった。審査に合格したものには校長裁定経費の一部が配分された。（総額約 500 万円）。 平成 22 年度科学研究費補助金に本校から 60 件応募し、7 件採択された。継続分も含めると 18 件（2,081.4 万円）の科学研究費補助金を獲得した。これは全国の高専でもトップクラスである。</p> <p>③平成 22 年度に新たに獲得した外部資金は次の通りである。 ・しまね産業振興財団から人材育成に関して 4 件（1,220 万円）。 ・機構からの特別教育研究経費 3 件（960 万円） ・中小企業庁から 1 件（433 万円） ・J S T から 1 件（1,200 万円）</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・機関横断的人材育成事業（原子力）1件（約50万円） 平成22年度は継続分も含めると合計5,944万円の補助金を獲得した。
--	--	--

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

機構中期計画	松江高専中期計画	平成22年度 松江高専年度計画	平成22年度の評価
<p>① 地域共同テクノセンターなどの施設や設備の充実を計画的に推進する。</p> <p>② 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう各学校の広報体制を充実する。</p> <p>③ 小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、取組事例を総合データベースに蓄積・共有し活用する。</p> <p>④ 満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として各学校における公開講座の充実を支援する。</p> <p>⑤ 国立高等専門学校卒業者の動向を把握するとともに、卒業者のネットワーク作りとその活用を図る。</p> <p>⑥ 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進するため海外の教育機関との国際交流やインターンシップを推進するとともに、JICA（国際協力機構）を通じた海外へ</p>	<p>①地域共同テクノセンターなどの施設や設備の充実を計画的に推進する。</p> <p>②教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう広報体制を充実する。</p> <p>③小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するよう努める。</p> <p>④生涯学習機関として学校における各種講座の充実をはかるとともに、満足度調査において多数の参加者から評価されるよう講座内容を支援する。</p> <p>⑤同窓会組織との連携を継続的に維持する。</p> <p>1. 学校創立50周年(平成25年度)事業を実施する方向で検討し、同窓会との連携で計画する。</p> <p>2. 学校として同窓会の業務を補助する職員を確保すること、および学内ネットワークによる公的なメールアドレスを配付する等、同窓会との協力を図る。</p> <p>⑥現在行われている海外との交流関係を維持するとともに、現在のプログラ</p>	<p>①地域共同テクノセンターなどの施設や設備の充実を計画的に推進する。 施設設備委員会、環境・施設係</p> <p>②教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう広報体制を充実する。</p> <p>③小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するよう努める。</p> <p>④生涯学習機関として学校における各種講座の充実をはかるとともに、満足度調査において多数の参加者から評価されるよう講座内容を支援する。</p>	<p>① 寮改修など上位順位の要望が通っておらず予算申請に至っていない。</p> <p>② 研究のシーズ集を本年度改訂しホームページに公開した。また、ホームページを本年度大幅に改訂する作業が進行中である。</p> <p>③ 小・中学生を対象とした出前授業や学校開放事業等を31件実施し885名の参加があった。また、外部団体から依頼された理工学系の地域イベントや講座等への参加・協力を6件725名を対象に実施した。さらに本校で実施している推進事業として、本校主催の大型イベントを学内および大型施設で実施し約2,000人以上の地域住民の参加者があった。加えて、JSTで採択された地域ネットワーク支援事業において県内の科学館などの施設と連携し7月～2月で300回以上を超えるイベント事業を推進した。（修正済4/4 箕田）</p> <p>④ 人材育成（シーケンス講座）推進室は、シーケンス制御技術に関する実習講座を行った。具体的には、入門編を6回（6/18・19、6/25・26、7/9・10、9/8・9、2/9・10、2/18・19）、タッチパネル編を4回（7/16、7/23、9/10、</p>

<p>の技術協力に取り組む。</p> <p>⑦ 留学生受入れ拡大に向けた環境整備及び受入れプログラムの企画等を検討するとともに、留学生受入れ促進のための拠点として、留学生交流促進センターを設置する。</p> <p>⑧ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。</p>	<p>ムを改良しつつ拡大する。また、インターンシップなどを推進することを目的として、必要であれば海外の教育機関との新しい関係構築にも取り組む。</p> <p>⑦留学生受入れ拡大に向けた環境整備について検討する。</p> <p>⑧留学生に対し、学校全体として学業面や生活面を支援する体制を整えると共に、相互交流を深める催しや地域の歴史・文化への理解を深める見学・研修旅行などを毎年度提供する。</p>	<p>⑤同窓会組織との連携を継続的に維持する。</p> <p>1. 学校創立 50 周年(平成 25 年度)事業を実施する方向で検討し、同窓会との連携で計画する。</p> <p>2. 学校として同窓会の業務を補助する職員を確保すること、および学内ネットワークによる公的なメールアドレスを配付する等、同窓会との協力を図る。</p>	<p>2/25) 実施した。</p> <p>人材育成(最先端加工)推進室では、先端加工技術の基礎的なものから実践的技術に関する実習講座及び見学会等を実施した。具体的には、超入門講座 1 回(10/1・2)、入門講座 2 回(11/12・13、11/19・20)、応用講座 2 回(6/25・26、7/23・24)、演習講座 1 回(1/14・15)、見学会・セミナー 1 回(9/9)を実施した。</p> <p>人材育成(メカトロニクス講座)推進室では、電気電子回路の知識を習得したいという地元企業からのニーズに対して、マイコンなどの制御機器等に関する基本知識を習得できる「電子回路の基本知識講座」を 11/26.27 および 12/10.11 に開催した。この他、センサによる制御を行う回路から電子回路の考え方をなぞることができる「電子回路考え方入門講座」を 1/15 に実施した。</p> <p>ものづくり分野の人材育成「ものづくり若手技術者養成講座」推進室では、機械設計から電子制御までの一連のプロセスに関する講座を計 7 回実施した(7/15・16・29・30、8/10・26・27、9/2・3、9/17)。くわえて、シーケンス制御に関する講座を 2 回実施した(11/25・26、12/2・3)。</p> <p>⑤ 1. 学校創立 50 周年は、25 年度の後期(高専祭の頃)に実施することが学校協議会(5 月 19 日)で決定された。平成 16 年度に発刊された同窓会名簿と保護者名簿を基に、本校全卒業生(6,362 名)の内、住所調査が可能な約 5,300 名(同窓会名簿にける不明者を除き)に学校創立 50 周年の開催時期の通知と住所調査用の葉書(名簿</p>
--	---	--	--

		<p>⑥現在続けているニュージーランド Wintec との交流協定のもとでの学生・教員派遣を持続し、同時にシンガポールの各ポリテクにおいて開催されるプログラムへの参加についても学生へ周知し励行する。国際交流委員会</p> <p>⑦留学生受入れ拡大に向けた環境整備について検討する。(留学生WG)</p> <p>⑧留学生に対し、学校全体として学業面や生活面を支援する体制を整えると共に、相互交流を深める催しや地域の歴史・文化への理解を深める見学・研修旅行などを計画実施する。(留学生WG)</p>	<p>冊子の発刊はせず、卒業生と学校・卒業生同士のネットネットワーク構築のためのデータベース作成を目的としている)を送付した。</p> <p>2. 上記1. で示した学校・卒業生のネットネットワーク構築のためのデータベース作成等の同窓会事業、同窓会入会金の徴収等の同窓会会計業務、理事会の運営についての同窓会の事務は、非常勤事務員(2名)が担当した。</p> <p>⑥ 本年度も 20 名の学生と 2 名の教員が Wintec 研修に参加した。そのプログラム内容についても熟慮されたもので、高い効果が得られた。シンガポールのポリテク関連のプログラムについても学生への周知徹底を図り、昨年度に続いて興味関心を持って参加してくれる学生の増加に努めた。</p> <p>⑦「平成 22 年度営繕事業として寄宿舍 5 号館 1 階の留学生居室の改修及び便所等水回りのリニューアルを実施した。また、留学生交流研究協議会(7 月 8 日,9 日東京)に留学生 WG 委員(中村教員)を派遣し、「留学生に対する教育支援について」意見交換や、情報収集を行なった。留学生用図書の充実として、留学生の要望を考慮して、新たに洋書の専門書や洋雑誌(National Geographic と Reader's Digest)を定期購読した。</p> <p>⑧ 留学生 WG 委員を中心として、学業面と生活面の両面からのバックアップ体制(試験後の定期的な面談、学業での補講実施など)を整え、留学生個々が直面している悩みや問題点の早期把握とその解決を図った。また、3,4 年次の留学生に対しては、同クラ</p>
--	--	---	--

			<p>スの日本人学生を各留学生のチュータとして配備し、学習面から寮、学校生活面まで、広くサポートする制度を運用している。更に、学期毎に教職員・チュータ学生・留学生との懇親会を実施して、相互理解を深めた。島根県内の文化施設・名所旧跡を巡る研修旅行と冬季のスキー研修旅行を実施し、地域の歴史・文化への理解を深める取り組みを行なった。</p> <p>更に、マレーシア政府派遣留学生に対して、「線形代数」が未履修であったため、編入後に特別補講という形で15コマ分の講義を実施し、基礎力向上を図った。</p>

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
4 管理運営に関する事項			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>① 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p> <p>② 管理運営の在り方について、校長など学校運営に責任ある者による研究会を開催する。</p>	<p>①学校教育法第70条の7第3項及び独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第2項の規定に基づき、本校の運営・校務等に関する重要事項は校長が決定する。決定に当たって、必要と認める場合には、運営組織規則で定める学校協議会、学務協議会、学科長・センター長会議又は各種委員会等を開催して、意見を聴取する。また、校長は必要に応じて学校運営上の重要事項について参考意見を聞くため校長諮問会議を招集する。</p>	<p>管理運営</p> <p>①学校教育法第70条の7第3項及び独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第2項の規定に基づき、本校の運営・校務等に関する重要事項は校長が決定する。決定に当たって、必要と認める場合には、運営組織規則で定める学校協議会、学務協議会、学科長・センター長会議又は各種委員会等を開催して、意見を聴取する。また、校長は必要に応じて学校運営上の重要事項について参考意見を聞くため校長諮問会議を招集する。</p> <p>事務部</p> <p>②危機管理体制について、災害、流行性感冒、事故及び事件の未然防止を教職員</p>	<p>①実施した</p> <p>②「本校危機管理要領」を制定して体制強化した。具体的には、防災訓練、防火訓練の実施、流行性</p>

<p>③ 法人としてのスケールメリットを生かし、事務の効率化・合理化を図るため、共通システムの効率的な運用方法について検討を行うとともに、事務マニュアルの充実を図る。</p> <p>④ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要な研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。</p> <p>⑤ 事務職員及び技術職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。</p>	<p>④事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要に応じ国立大学や高等専門学校などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。</p> <p>⑤事務職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。</p>	<p>に周知徹底する。発生の際は、直ちにトップダウンの対策チームを設置し、原因事実の徹底解明、再発防止策の構築、関係者への責任ある説明及び状況によりマスコミへの正確かつ真摯な対応を行う。また、事故及び事件の場合は、関係者を厳正に処分するとともに警察若しくは消防当局への相談、届出又は刑事告発を行う。</p> <p>③ 教職員の服務監督について、常時状況把握する。また、健康管理について、学校医及び産業医と連携して良化に努める。</p> <p>④事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要に応じ国立大学や高等専門学校などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。</p> <p>⑤事務職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。</p>	<p>感冒発生時の対応策策定、交通事故や飲酒運転の根絶の周知徹底により、未然防止を図った。</p> <p>③実施した。</p> <p>④事務職員及び技術職員については、国立大学などが主催する研修に参加させた。技術職員については、企業での異業種体験研修に参加させた。</p> <p>⑤実施した。</p>
--	---	---	--

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
5 その他			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>「勧告の方向性を踏まえた見直し案」(平成 19 年 12 月 14 日文部科学省)、「整理合理化計画」(平成 19 年 12 月 24 日閣議決定)及び「中央教育審議会答申」(平成 20 年 12 月 24 日)を踏まえ、平成 21 年 10 月に既設の 8 つの高等専門学校を 4 つに統合するとともに、新設される仙台高等専門学校、富山高等専門学校、香川高等専門学校、熊本高等専門学</p>			

校については、時代や地域の要請に即応した新しい機能を備えた高等専門学校を目指すとの統合の趣旨に沿った業務運営を行う。			
--	--	--	--

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。</p> <p>55の国立高等専門学校が1つの法人にまとめられたスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p> <p>契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。</p> <p>平成19年度に策定した随意契約見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、随意契約見直し計画の取組状況をホームページにより公表する。</p>	<p>契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。</p> <p>高専独自経理に係る預金取扱金融機関との現金払出、払込、振替、振込等の金融取引について、インターネット取引により、現金搬送時の事故又は事件回避、預金取扱金融機関への支払手数料低減及び金融取引の正確かつ迅速化による高専出納事務処理コストの低減を図る。</p>	<p>① 一般管理費について、効率的な支出を行い、縮減に努める。</p> <p>② 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。</p> <p>③ 高専独自経理に係る預金取扱金融機関との現金払出、払込、振替、振込等の金融取引について、インターネット取引により、現金搬送時の事故又は事件回避、預金取扱金融機関への支払手数料低減及び金融取引の正確かつ迅速化による高専出納事務処理コストの低減を図る。 事務部</p>	<p>①実施した。</p> <p>②実施した。</p> <p>③インターネット取引により、事務処理コストの低減を図った。併せて、一括振込みサービスの活用で同様に低減を図った。</p>

III 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現		管理運営 企画係	産学連携では、産業界との共同研究、受託研究、受託事業、寄付金を受

<p>共同研究，受託研究，奨学寄附金，科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み，自己収入の増加を図る。</p> <p>2 予算 別紙1 3 収支計画 別紙2 4 資金計画 別紙3 5 予算等のうち常勤役職員に係る人件費</p> <p>平成 22 年度の常勤役職員に係る人件費を平成 17 年度（49,734 百万円）に比べて 5.0%以上削減する。ただし，平成 18 年度以降の人事院勧告を踏まえた給与改定を行った場合は，その改定分については，削減対象から除く。なお，人件費の範囲は報酬（給与），賞与，その他の手当であり，退職金，福利厚生費（法定福利費及び法定外福利費）は含まない。</p> <p>さらに，国家公務員の改革を踏まえ，人件費改革を平成 23 年度まで継続する。また，国立高等専門学校機構の給与水準については，「独立行政法人国立高等専門学校機構の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性について」における指摘事項を踏まえた見直し案を踏まえ，引き続き適正化に取り組む。</p>	<p>共同研究，受託研究，科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み，自己収入の増加を図る。</p>	<p>共同研究，受託研究，科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み，自己収入の増加を図る。</p>	<p>け入れている。平成 22 年度は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究 10 件(330.5 万円) ・受託研究 3 件(213 万円) ・受託事業 7 件(1,223.2 万円) ・寄付金 27 件(1,443.5 万円) <p>を受け入れた。</p>
--	--	--	--

IV 短期借入金の限度額			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>1 短期借入金の限度額 168 億円</p> <p>2 想定される理由 運営費交付金の受入の遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策</p>			

費として借入することが想定される。			
-------------------	--	--	--

V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
計画の予定なし。			

VI 剰余金の使途			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。			

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項			
機構中期計画	松江高専中期計画	平成 22 年度 松江高専年度計画	平成 22 年度の評価
<p>1 施設・設備に関する計画 教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等を計画的に進める。</p> <p>2 人事に関する計画 (1) 方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。 (2) 人員に関する指標 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、中期目標期間中に全体として効率化を図りつつ、常勤職員の抑制を図るとともに、事務の電子化、アウトソーシング等により事務の合理化を進め、事務職員を削減する。</p> <p>3 積立金の使途 前期中期目標期間の繰越積立金（目的積立金相当部分）については、以下の事業</p>			

<p>の財源に充てる。 （１）学生寄宿舍の生活環境整備事業 （２）女子学生確保に資するための校舎 整備事業</p>			
---	--	--	--